

カタビロハムシの分布

(兵庫県甲虫相資料・323)

高橋寿郎

カタビロハムシ *Colobaspis japonica* (Baly, 1873) は日本では1属1種だけであり、現在分布地としては本州と九州のみしか知られていない。本種が属している亜科は南米とアフリカの熱帯地方と中米において最も繁栄しているハムシである。

日本においては、僅か1種しか知られていない、それも本州と九州にしか分布していないことで、わりあいとお目にかかる機会の少ないハムシのように思われるが、大体の傾向はわかるのではとまとめてみた。

まず本種は、G.Lewis が日本で採集したハムシ類を研究した Baly の研究論文で1873年発表されたものの中に *Temnaspis japonicus* Baly として記載されたものである(p.78)。原産地は Nagasaki だけになっている。1931年に松村松年博士は初め

た。またその解説の中で分布は本州、九州となっているが、日本の南の方ではごく普通種であると大変興味ある解説文をつけておられる。

1932年に発表になった中條道夫博士の論文では Baly が記載に用いた G.Lewis の採集品は長崎で1881年4月17日採集になったものであると、また岩手で採集されていることを示されている。戦前での本種についての解説された文献は以上のほかあまり良く知られていなかったのではと考えられる。

戦後いち早く高倉康男の福岡県での観察記録(1952, 1955, 1961)、茨城県において尾田治徳の生態についての調査発表(1954)、奥谷禎一博士による食草の観察(1954)等の発表により、本種についてある程度の関心も出始め、本種の分布もそここでの報告が現れるようになった。まず、手許にある文献で本州の北の方からその分布が知られている地域を次に示してみる。

岩手県。Iwate(DOI, 1926)。岩手(湯浅啓温, 1950)

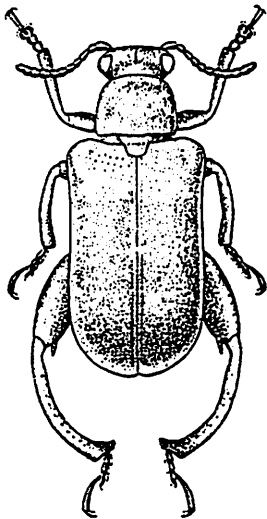
宮城県。仙台市貝ヶ森, 仙台市作並, 仙台市宮城野区岩切高森山, 富谷町仏所, 大衡村北沢, 唐桑町大沢出山(保谷忠良ら, 1992)。大衡村北沢(渡辺 徳, 1989)。宮城町昨並(草刈広一・山谷文仁, 1982)。

秋田県。秋田市野田(大平山麓)(大摩洋二, 1957)。秋田市(大野正男, 1967)

新潟県。Niitsu(新津)(M.Chūjō, 1956)。北蒲原郡黒川村池内(馬場金太郎, 1972)。

栃木県。鹿沼市郊外若山三番若麓, 花岡高山山麓, 西鹿沼西町, 宇都宮市戸際水道山, 足利郡北郷村, 足利市西の宮町(以上尾田治徳, 1954)。

茨城県。太子町八溝山, 水戸市森林公園(大桃定



Colobaspis japonica (Baly) カタビロハムシ

S.Kimoto, Jour. Pac. Agr. Kyusyu Univ. 13(1):111.

1964より

と考えられるが本種を美しいカラーで図説され

洋ほか, 1993)

石川県. 能登半島(高羽正治, 1992).

福井県. 永平寺町: 冠岳. 大野市: 下打波. 今庄町: 藤倉山(佐々治寛之・斉藤昌弘, 1985).

愛知県. 東三河・新城市船着山(山崎隆弘, 穂積俊文, 1990)

岐阜県. 揖斐・本巣, 谷汲村妙法ヶ岳(磯野昌弘, 1982).

近畿地方であるが, 木元新作は大阪府箕面の産を報告しているが(1964), 後藤光男らによる箕面山の動物相調査(1965), 同調査(改訂版)(1967)にはともに出していない. 別にいたとしても不思議ではない. 京都では高橋 敏の京都府南部の甲虫(1985)には出てこないし, 同じく高橋 敏の奈良公園の甲虫(1991)にも出てこない. 但し水野弘造の京都府産ハムシ目録には出てくる(1992). 芦生・松ヶ崎, 井出峠が産地に示されている. 和歌山県, 三重県での記録は見られなかったが滋賀県の比良山での記録はある(S.Kimoto et I.Hiura, 1964., 大野正男, 1979).

ここで兵庫県下の状況についてのべておく. 兵庫県では1954年奥谷禎一博士によりこの種がトネリコのない平地ではイボタを食べていると, 多紀郡藤岡奥, 篠山などでの観察結果の報告があると同時に, 同地にこの種の分布していることを報告された. 山本義丸氏も篠山での産を報告している.

筆者は神戸市の丹生山と山の街で採集しているし, 森 和夫氏によると布引~市ヶ原~摩耶山にて4月下旬トネリコの樹に割合多くの個体を見ることが出来るとの御教示も頂いている.

県下での奥地での分布はよくわからないが, 大体県中央部あたり迄であると, 出現期4月下旬を中心に注意をすれば, それほど珍しくないのではと考えられる.

中国地方では, 広島県の吉和村(小阪敏和ほか, 1977), 神石郡神石町犬瀬(秋山美文, 1988), (ともに中村慎吾ほか, 1994年の記録もある)と記録

地点が少ない. 山口県でも各地に産するも少ないとのべられている(山口博物館, 1988).

長崎は原記載以後の記録を知らないが, 福岡県は結構多くの産地がある. 即ち福岡県田川郡英彦山, 田川市東区東町(高倉康男, 1952). 福岡市内, 田川市内(高倉康男, 1955). 粕屋郡篠栗町(高倉康男, 1961). 小倉市愛宕山(S.Kimoto, 1964). 古処山, 平尾台(高倉康男, 1989).

以上のような産地が知られており, 本州, 九州ではかなり広い範囲での分布を示していると思われるが, 記録が意外と少ない. これはこの種の出現期が一般のハムシより早い時期に現れていることで, 兵庫県の場合でも4月下旬を中心として出現しているようで一般のハムシなどより出現期がかなり早い. したがって, このような時期を中心に調査を進めればもっと産地は増えるものと考えられる. 今後の調査のあり方として注目しなくてはいけない点かと考えられる.

<参考文献>

- 秋山美文(1988) 神石郡の甲虫類(4). 広島虫の会々報(27):67-69.
- 馬場金太郎(1972) 胎内川流域の鞘翅目. 飯豊山塊, 胎内溪谷の生物. pp.195-240.
- Baly, J.S.(1873) Catalogue of the Phytophagous Coleoptera of Japan, with descriptions of the species new to science. Trans. Ent. Soc. London, 1873. Part. I:69-99.
- M.Chūjō,(1932) Studies on the Chrysomelidae in the Japanese Empire(I). Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa 22(121):310-317.
- M.Chūjō,(1956) Chrysomelid-Beetles of Niigata Prefecture, Japan, chiefly collected by Dr. Kintaro Baba.
- J.L.Gressitt & S.Kimoto(1961) The Chrysomelidae (Coleop.) of China and Korea. Part.1.

- Pac. Ins. Monog. 1A:32.
- 保谷忠良・金沢 理・佐々木元幸(1992) 宮城県のハムシ(宮城県仙台第二高等学校刊)
- S.Kimoto(1964) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Island. I. Jour. Fac. Ag. Kyushu Univ.,13(1):97-118.
- S.Kimoto(1983) Revisional Study on Megalopodinae, Donaciinae and Clytrinae of Japan (Coleoptera: Chrysomelidae). Ent. Rev. Japan 38(1):5-23.
- 木元新作(1984) 原色日本甲虫図鑑 (IV) (保育社・大阪)
- S.Kimoto & I.Hiura(1964) A List of the Chrysomelid Specimens preserved in the Osaka Museum of National History I (Insecta: Coleoptera). Bull. Osaka Mus. Nat. Hist., No.17:5-18.
- 木元新作・滝沢春雄(1994) 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説(東海大学出版会・東京)
- 小阪敏和・村上貴望・角島幸二(1977) 広島県産甲虫ノート(8). 広島虫の会々報(16):187-191.
- 草刈広一・山谷文仁(1982) 山形・宮城のハムシ. 山形昆虫同好会々誌(11):11.
- 松村松年(1931) 日本通俗昆虫図説第三巻. 甲虫之部. pl.18, f.16, p.118 (春陽堂・東京)
- 水野弘造(1992) 京都府産ハムシ科甲虫目録. 関西甲虫談話会資料, 第4号.
- 中村慎吾・秋山美文・木元新作(1994) 広島県産ハムシ科目録. 比和科学博物館研究報告(32): 69-101.
- 中根猛彦(1963) 原色日本昆虫大図鑑第2巻(甲虫篇), pl.160, f.21, p.320,21.(北隆館・東京)
- 尾田治徳(1954) カタピロハムシ成虫に関する一知見. 新昆虫7(4):40-41.
- 奥谷禎一(1954) カタピロハムシの食草. 新昆虫7(7):43.
- 大桃定洋ほか(1993) 茨城県のコウチュウ目. 茨城県の昆虫:88-196.
- 大野正男(1967) 秋田市のハムシ類. 東北昆虫研究3(1・2):1-10.
- 大野正男(1979) 滋賀県のハムシ相. 滋賀県の自然:757-777(滋賀県自然保護財団)
- 佐々治寛之・斉藤昌弘(1985) 甲虫目. 福井県昆虫目録:79-245.(福井県)
- 志摩洋二(1957) 秋田市でカタピロハムシを採集. 新昆虫10(6):46.
- 高羽正治(1992) 石川県産甲虫類初出文献一覧表. 石川むしの会特別研究報告第6号.
- 高橋寿郎(1956) きれいな甲虫. 兵庫県生物誌:58.(兵庫県生物学会編・神戸新聞社刊)
- 高倉康男(1952) ハムシ雑録(V) カタピロハムシの分布. 新昆虫5(2):40.
- 高倉康男(1955) カタピロハムシに関する一知見. 新昆虫8(5):52-53.
- 高倉康男(1961) 九州産ハムシ類の生態的知見. 北九州の昆虫8(1):1-14.
- 高倉康男(1989) 福岡県の甲虫相.(葦香房・福岡)
- 竹中英雄(1975) 学研中高生図鑑 昆虫II・甲虫.(学研・東京)
- 竹中英雄(1985) 決定版 生物大図鑑 昆虫II・甲虫II. 甲虫(KK.世界文化社・東京)
- 湯浅啓温(1950) 日本昆虫図鑑(ハムシ科)p.1190, f.3422.(北隆館・東京)
- 渡辺 徳(1989) 宮城県の甲虫(日本鞘翅学会刊・東京)
- 山口県立山口博物館(1988) 山口県の昆虫.
- 山本義丸(1958) 兵庫県氷上郡昆虫目録. NATURA 特別号 氷上の自然第3集:96(兵庫県立柏原高等学校生物教室)
- 山崎隆弘・穂積俊文(1990) 愛知県のハムシ科. 愛知県の昆虫(上):444-460.
- (TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)